坂和総合法律事務所

事　務　所　だ　よ　り

（莫言ノーベル文学賞受賞祝い１６頁特大号）

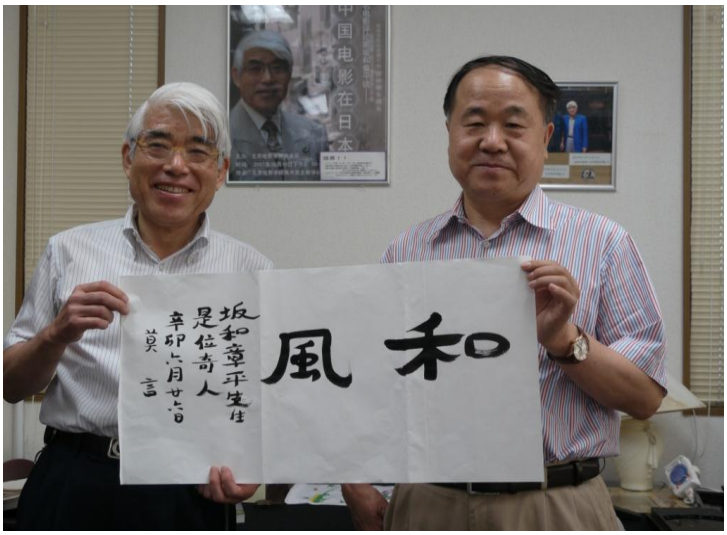
第２０号　2013（平成 25）年新年号

編集・発行：坂和総合法律事務所
〒530-0047
大阪市北区西天満３丁目４番６号
西天満コートビル３階
TEL06(6364)5871・FAX06(6364)5820
ﾒｰﾙ office@sakawa-lawoffice.gr.jp
HP http://www.sakawa-lawoffice.gr.jp
ﾌﾞﾛｸﾞ http://sakawa.exblog.jp/

坂和総合法律事務所の新旧スタッフ、全員集合！

（写真左上から）
吉田知恵子　正池香苗　原田雅子　細谷優子　永田ひとみ
松井麻子弁護士　坂和章平弁護士　坂和宏展弁護士　永井章紀弁護士
（平成２４年１１月２６日撮影）

莫言さん、ノーベル文学賞おめでとう！



２０１１年７月２６日に対談した莫言さんが見事受賞！

対談に向けて読破した莫言さんの小説

新年明けましておめでとうございます。

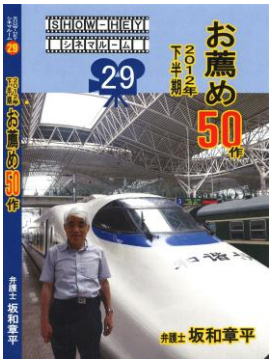
１）昨年１１月１４日の安倍晋三自民党総裁との党首討論の席で野田佳彦総理は突然、１１月１６日の衆議院解散を宣言。正直に馬鹿がつく、と父親から言われた総理はこれによって「近いうち解散」の約束を守ったわけだが、他方では「第三極」が未結集のうちに、という計算も働いたはずだ。投票日は東京都知事選挙と同じ１２月１６日。解散宣言と同時に突如あれこれの新党が増殖しはじめたが、それは所詮茶番劇。民主党の政権喪失は確実だが、師走選挙第１の焦点は政権奪還を目指す安倍晋三自民党の議席の伸び。第２の焦点は敢えて石原慎太郎と組んで「代表」を譲り、自らは「代表代行」となった橋下徹大阪市長率いる「日本維新の会」を中心とする第三極がどこまで議席を獲得するか、だ。０９年８月３０日の「政権交代」が大いに国益を損ね、国民の生活を台無しにしたことが明白になった今、限られた選択肢の中とはいえ、この投票においてすべての有権者の知恵が試され、良くも悪くもこの国の新たな第１ラウンドの形が決まるはずだ。

２）昨年９月１１日の野田総理による尖閣諸島国有化宣言以降、日中関係は最悪となり、日中国交回復４０周年の各種事業も吹っ飛んだ。「政冷経熱」の関係も壊れ、車を中心とした日本製品のボイコットや観光客の激減は深刻だ。しかし、出版を軸とした私の中国との文化交流はそんなことに負けず、ますます強まっている。莫言さんのノーベル文学賞受賞を心から祝福したい。

３）２０１２年は世界的に指導者交代の年となったが、３月に再び大統領に返り咲いたロシアのプーチンは？

２冊目の中国語の本を出版！表紙の写真は『さらば、わが愛／覇王別姫』の亡張國榮（レスリー・チャン）。映画を通じた日中交流のためにも是非本書を！

８月の上海・合肥・南京・上海旅行では和諧号に３度も乗車。日中関係が悪化する中、映画を通じた相互理解のためにも是非本書を！



５月に新大統領となったフランスのオランドは？１１月にアメリカ大統領に再選されたオバマは？また１１月１５日に胡錦涛に代わって新たな共産党総書記に就任し、１３億人の中国を率いていく習近平は？１２月１９日投票による韓国の新大統領は？そして、これら各国の新指導者と渡り合うはずの、日本の新総理とその政権の枠組みは？「決められない政治」との決別は不可欠だが、それは同時に外交・安全保障問題における緊張感の増大を伴うはず。戦後６７年間続いた平和の意味を確認しつつ、新たな日本国の出発を目指したい。

４）３・１１東日本大震災からの復興は、復興基本法、復興庁設置法、特区法、復興財源確保法などの制定にもかかわらず、遅々として進まない。復興予算の「流用」問題はもっての他。園子温監督の『ヒミズ』（１２年）や『希望の国』（１２年）そして杉野希妃プロデュース・主演の『おだやかな日常』（１２年）等の東日本大震災をテーマとした問題提起作からしっかり学びたい。

５）ヨーロッパの経済が心配なら、中東での火種も心配。考えればキリがないが、少なくとも私たちは「この国のかたち」に責任を持たなければ。皆様の今年一年のご健康を心から願っています。

２０１３（平成２５）年元旦

坂和総合法律事務所

所長　弁護士　坂和　章平

昨年の総括と２０１３年に向けての弁護士坂和章平の抱負と決意

１　事務所体制

１）昨年は体調不良のため一時休養していた松井麻子弁護士が９月から復帰。永井章紀弁護士ともども頑張っているが、弁護士２年目を迎えた２人の成長は？

２）宏展弁護士の総括と展望は本人に譲るが、今年も少しのケンカとたくさんの議論をしながら難事件についての調査・処理能力を高めてもらいたい。

３）若手で映画評論のパソコン打ちをメインに頑張っていた中野綾香が１０月末で退職。入れ違いに吉田知恵子が入所した。厳しい仕事に耐えて成長してくれることを期待したい。他方、入所半年後に事務局長に就任した原田雅子は事件担当の要として、３年目となる正池香苗はレジメづくり、名簿管理、シネマルームや事務所だより作成等々の要として、なくてはならない人材に成長した。さらに古株の細谷優子は経理の要として、永田ひとみは都市計画法などの原稿づくりや各種原稿の最終チェック係として重要な役割を。今年も各自の役割をしっかりと果たしてもらいたい。

２　弁護士業務

１）今年下半期の大きな事件としては、交通事故の被害者側の損害賠償請求事件で、２億６０００万円を超える高額の認容判決を獲得した事件が挙げられる。

　この事件は、事故発生から約６年、第一審の審理だけで約４年間の時間を要した大事件。加害者の一方的過失による交通事故によって重度の障害を負った被害者への損害賠償のうち介護費用が大きな争点となった。介護費用は１日一人当たり２万円以上であること、介護が長期間にわたるため損害額は６億円を超えると主張して闘い、第一審では既払額を除き約２億６０００万円が損害額として認容された。控訴審でも第一審判決からさらに若干の増額を勝ち取ることができた。互いに上告しなかったため控訴審で確定したが、当事務所として史上最高額の事件であっただけでなく、重度障害を負った交通事故被害者の介護はいかに大変なことであるかを判決で認めさせるという社会的意義の大きい事件となった（この事件の一審判決は『自保ジャーナル』１８６４号に掲載）。

２）私は最近株式会社オービックの監査役としての仕事の比重が大きくなっている。毎月一度の監査役会と取締役会への出席、年一度の株主総会への出席が最低限の義務だが、利益率が３０％を優に超す優良企業オービックでは監査役として検討を要する問題点は従来ほとんどなかった。しかし近時は投資有価証券の問題で悩ましい問題が発生し、その検討が大きな課題となっている。一部上場企業の決算や会計監査それ自体きちんと勉強しなければわからないうえ、次々と改正された会社法の理解と論点整理も難しい。しかし、弁護士４０年を迎えようとする中でこんな難しいテーマに取り組めることに感謝しながら、今年もしっかり勉強し、万全の処理としたい。

３　出版

１）『电影如歌　一个人的银幕笔记』の出版

旅行記で紹介したように、８月１７日の上海ブックフェアで私の２冊目の中国語本となる『电影如歌　一个人的银幕笔记』を出版。これは２０１０年に出版した『名作映画には「生きるヒント」がいっぱい！』（河出書房新社）を翻訳したうえ、十数本の中国映画を加えたおしゃれな本。表紙を飾るのは陳凱歌（チェン・カイコー）監督の名作『さらば、わが愛／覇王別姫』で、京劇の女形・程蝶衣（チェン・ディエイー）を演じた亡張國榮（レスリー・チャン）の色っぽい写真だ。昨年９月１１日の野田総理による尖閣諸島国有化宣言以降日中関係は最悪だが、文化交流とりわけ映画を通じた相互理解に政治は無関係。是非多くの中国人に本書を読んでもらいたい。また、中国語を読める日本人や日本に留学中の中国人学生も是非本書を！

２）『わかりやすい都市計画法の手引』と『問答式　土地区画整理の法律実務』の追録執筆

　３・１１東日本大震災からの復興のための新法づくりは、菅政権のドタバタと政局絡みのため大幅に遅れたが、６月に復興基本法が成立。さらに復興庁設置法、復興特別区域法、復興財源確保法、津波防災地域づくりに関する法律が成立し、現在少しずつ復興まちづくりが進んでいる。そんな新法の解説のため、昨年９月～１１月に『わかりやすい都市計画法の手引』の追録原稿を執筆。また『問答式　土地区画整理の法律実務』についても、第二次地域主権改革一括法による権限委譲に伴う改正について追録原稿を執筆。

３）『都市計画法の読み解き方』（仮題）の企画が始動！

　『実務不動産法講義』は民事法研究会が法科大学院用教科書としてシリーズ化している「実務法律講義」の１冊として活用されてきた。０５年４月の出版から７年を経たためその改訂版の執筆に着手していたが、法科大学院をめぐる情勢が悪化する中その改訂ではなく、０７年７月に出版した『建築基準法の読み解き

方』の姉妹版となる『都市計画法の読み解き方』として出版する企画がまとまり始動しはじめた。都市計画法と建築基準法と都市再開発法は１９６８年～７０年に近代都市法の柱として制定されたが、とにかく複雑かつ難解。そこで坂和流の「読み解き方」が大切になるわけだ。都市計画法の次には『都市再開発法の読み解き方』にも着手する予定だから、それが完成すれば近代都市法の坂和流読み解き方三部作になる。年末年始の休みを返上して着手する意気込みなので、その完成をお楽しみに。

４）『建築基準法の読み解き方』と『眺望・景観をめぐる法と政策』は好評発売中！

『シネマルーム』の出版は既に２９冊目になったが、上記２冊は私の弁護士のライフワークである「都市法」の１つの分野について精魂込めて書いた専門書。内容は難しいが、興味のある人は是非購入してほしい。

４ 中国関連の活動

昨年は９月中旬以降日中関係が悪化する一方、１０月に莫言さんがノーベル文学賞を受賞したことによって毛丹青氏の活動が一気に拡大。また彼が主筆を務める雑誌『知日』の編集長苏静氏さんの来日もあり、『知日』との接点がより密接になった。莫言さんの小説が脚光を浴びているので、受賞祝賀会はもとより、その文学を通じた日中友好の活動が広がるはずだ。

『电影如歌』の出版に続く次の企画も練りたい。

５ 映画評論家活動

『シネマルーム』は２０１３年夏には記念すべき３０号となる。１年２冊、５０本の厳選作を掲載というスタイルを今後もできるだけ長く続けたい。また昨年は『リンカーン弁護士』のＤＶＤ発売に伴いはじめてその解説文を書いた。新聞・雑誌への連載を含め、今後も映画評論家としての活動の拡大を目指したい。

昨年の総括と２０１３年に向けての弁護士坂和宏展の抱負と決意

１）近況

昨年は、個人的には自宅の引っ越しをした程度であまり変化のない１年でした。引っ越しといっても、以前同様事務所から自転車で５分とかからない距離ですので、生活環境も特に変化はありません。そんな中トピックを探すと、今年はダイエットに成功した１年になりました。これまで体重は増える一方でしたが、今年の夏ごろから食生活の改善を通じて約７キロ減量に成功。今のところリバウンドもなく安定しています。もっとも、外見からはあまり分からないようで、「痩せたね」と褒めてもらえる機会がないのが残念です。もっとも、理想的な体重よりはまだまだ重いのが実情なので、より一層節制に励みたいと思っています。

２）弁護士の「見た目」

ところで、私は体重の重さが恰幅の良さにつながるのか老け顔なのか、これまで実年齢よりも年上に見られることが多かったように思います。しかし、３０代に入ってからはそのようなことも減り、年齢相応の外見になってきた（外見相応の年齢になってきた？）のかなと感じています。弁護士業務の上で、特に若いうちは実年齢より上に見えることは決して損ではなく、むしろ無用の侮りを受けないという意味で有利に働くことが多いものです。最近も「第一印象は何秒で決まる」とか「人は見た目が何割」などといった本が話題になりましたが、弁護士としても、依頼者に対する印象、相手方に対する印象、裁判所に対する印象、それぞれ自分の持ち味を活かしながら「見た目」を「演出」している部分があると思います。もちろん体重だけで見た目をコントロールできるわけではなく、服装、表情、話し方、身振り手振りなどのジェスチャー等々さまざまな要素を考えなければなりません。見た目ばかりにこだわって肝心の中身がおろそかになるようでは本末転倒ですが、私としては見た目も中身もより「スマート」になるよう心がけたいと思っています。

３）執務状況

昨年の執務状況については、永井、松井両弁護士が入所して１年間が経過し、試行錯誤の中で事件処理を行ってきました。私としても坂和事務所で新人弁護士を指導するのははじめてだったため、指示の出し方や事務所内での役割分担などに課題の見えた１年でした。現時点での私のポジションはいわば中間管理職のようなものですが、自分自身の事件処理のスタイルを含め今後どのような方向性を目指すのか、自分なりに考えていきたいと思います。また、昨年は印象に残る大きな事件がいくつか終結し、また山場を迎えました。事件の「大小」は、金額、事実関係の複雑さ、法的論点の多少、解決に要する時間、関係者の数、感情などさまざまな要素が絡んでくるため簡単に計ることはできませんが、その中でもやはり「大きい事件」は強く印象に残ります。事件を通じて得られたものを今後の執務に活かせるよう頑張っていきたいと思います。

４）趣味の活動はやや減少

他方で、執務が多忙になったこともあり、「軍事研究」やパソコン、本屋巡りといった趣味の活動はかなり減少しました。もっとも、これは興味の対象が動いたこと、ネットでの情報収集で間に合う作業が増えたことも原因です。特にパソコン関係は、これまでのように「新しい機種が出るたびに、これまでの製品に感じていた不満が解消されて購入したくなる」ということが減り、今使っているものでも十分に使い続けられると感じることが増えました。これは、技術が進歩したことによって市場が成熟し、安定したことの証だと思いますが、他方で、これまでのワクワクドキドキ感が減ってくるのは寂しいものです。こういうことを感じるのも年齢を重ねつつあるせいかもしれません。しかし、一方で、同じ土俵でスマートフォンやタブレット端末による市場が大きく成長しているのも事実であり、私にとっても新たな趣味のフィールドになっています。来年も、仕事同様にプライベートもますます充実させていきたいと考えています。

５）２０１３年の目標

今年で弁護士生活７年目に入ります。そのうち３年半を東京で過ごしましたので、坂和事務所での執務期間が東京での執務期間を超えることになります。一つの節目として自分自身のさらなる成長とともに今後のスタイルを確立する１年にしたいと考えていますので、今年もよろしくお願い致します。

天神祭（鉾流神事、陸渡御、船渡御）

＜７月２４日＞

①本殿にて、宵宮祭

②鉾流神事渡御列出門

③鉾流神事斎行

④鉾流神事斎行

⑤事務所前にて

⑥執務室で獅子舞を！

＜７月２５日＞

１）陸渡御、先頭催太鼓出門（供奉人員３，０００名）

⑦神鉾旗と共に

⑧先頭を馬上で進む猿田彦

⑨西天満連合神鉾講

⑩雄壮な地車講

⑪行列中にパチリ！

⑫華やかな傘踊り

２）船渡御、催太鼓乗船・船数、約１００隻
（供奉人員１０，０００名）

⑬アサヒ・スーパードライの船

⑭がんばろう！日本

３）最終玉神輿天満宮還御

⑮川も橋も人でいっぱい！

⑯能船

⑰神鉾奉納

西天満町連合町会　鳥取梨狩りバスツアー

１）砂の美術館見学

①砂の美術館前にて

②エリザベスⅠ世の前にて

③衛兵パレード

④２階からロンドン塔を

⑤左ダーウィン　右ニュートン

⑥ロンドン塔

２）梨園で梨食べ放題

⑦むいて食べたのは２個だけ！

３）賀露港でお買物

⑧のどぐろ８００円

天神祭（鉾流神事、陸渡御、船渡御）に西天満連合神鉾講の一員として初参加！（２０１２年７月２４日、２５日）（⬅写真は４頁上段）

１）事務所を０１年３月に西天満コートビルに移転してからは、次第に地元の源蔵町振興町会への参加が増えてきた。毎年７月２４日、２５日に開催される天神祭には、源蔵町振興町会を含む西天満連合神鉾講が供奉講社に名を連ねているが、２０１２年７月の天神祭にはその西天満連合神鉾講の鉾流神事、陸渡御、船渡御に、源蔵町振興町会から坂和が町会員の１人として参加することに。

２）日本三大祭の一つ、天神祭は一千年余の歴史と伝統を有し、その渡御行事は豪華絢爛を極め、特に船渡御の荘厳華麗さは、水都大阪に相応しい火と水の祭典。毎年、地元大阪はもちろんのこと、日本全国からの拝観者が陸渡御の沿道、船渡御の両岸を埋め尽くし、また外国人観光客も多数拝観し、大阪の観光と経済活性化に寄与している。そんな２０１２年の天神祭への参加の様子を写真と共にお伝えしたい。

西天満町連合町会　鳥取梨狩りバスツアーに参加（２０１２年９月１６日）（↙写真は４頁下段）

１）４月の源蔵町振興町会の総会・懇親会での有馬温泉一日旅行に続いて、９月には西天満町連合町会で鳥取砂丘への一日梨狩りバスツアーに参加。往復の渋滞はひどかったが、トイレ付きのバスならビール、ウィスキー、日本酒を飲みながら、眠りながらの大名旅行だからＯＫ。バス２台に分乗した町内の人たちとの親交を深める有意義な旅に。役員の皆様、ホントにご苦労様でした。

２）鳥取砂丘は２度行ったことがあるが、ここに砂の美術館ができていることにビックリ。「砂の世界旅行」をコンセプトに、今年はイギリスの偉大なる歴史と文化が砂像で表現（写真①～⑥）。続く目的地は梨食べ放題の梨園だが、昼食後の訪問だったため食べたのはたった２個のみ（写真⑦）。最後は海の幸のおみやげを賀露港で。値段交渉の末かなりの量を買い込むことに（写真⑧）。

毛丹青老師と坂和の共同作業あれこれ！　（写真は６頁➡）

１）０８年当時１０冊以上の著書をもち、８００万人のアクセスがあるブログをもつ、日本在住２０年のバイリンガル作家が１９６２年北京生まれの毛丹青氏。０８年３月に友人の紹介でそんな有名作家と出会い、雨の中を自転車で行きつけのちゃんこ屋へ。個性的で濃いキャラ（？）を互いに嗅ぎつけあい、書くことが大好きという共通点でたちまち２人は大の親友に。

２）まず最初のイベントは、０８年４月２日に開催された「中国の人気作家蘇童が行く関西の旅　歓迎座談会」。その懇親会で私は弁護士稼業との２足のわらじをはく映画評論家として紹介され、『シネマ５』が配布されることに。その後出版、講演会、ブックフェア等々、２人の共同作業は次々と広がり莫言さんとの対談も！以下２人の共同作業あれこれを振り返ると、６頁の写真のように盛りだくさん！

莫言さんノーベル文学賞受賞おめでとう！　（写真は７頁、対談レジメは８頁➡）

１）２０１２年９月１１日の尖閣諸島の国有化宣言以降、日中関係は冷え込んでいる。そんな中、毎年１０月中旬に発表されるノーベル文学賞については、日本の村上春樹と中国の莫言が有力視され、新聞紙上では『文学賞では日中対決？』の文字も躍った。世界最大のブックメーカー（賭け屋）「英ラドブロークス」のオッズ（賭け率）では、村上春樹がトップで莫言は二位だったが、フタをあけてみると・・・。張藝謀監督の映画『紅いコーリャン』（８７年）には大きな衝撃を受けたが、その原作小説が莫言の『赤い高粱』だ。

２）０９年４月以降神戸国際大学教授となっている毛丹青氏との共同作業は後記のとおりだが、そんな毛丹青氏プロデュースによって２０１１年７月２６日には坂和ＬＯにおいて、アジアでもっともノーベル文学賞に近い作家、莫言との対談が実現した（写真①②）。その日に向けて私は莫言の小説『赤い高粱』（８６年）、『白檀の刑』（０３年）、『四十一炮』（０６年）、『転生夢現』（０８年）、『蛙鳴』（１１年）、『牛築路』（１１年）を人物関係図や年表などのメモを作成しながら次々と読破するとともに、対談用の詳しいレジメと資料を準備した。その結果、毛丹青の通訳による約３時間に及ぶ対談は実り豊かなものとなった。また莫言からは自筆で「和風」と大書したうえ、「坂和章平先生は奇人」（これは、いい意味！）と書いた書をプレゼントしてもらった（１頁写真）。さらに私が購入した本には一冊一冊丁寧にサインしてくれたから、その誠実さにも感激！（写真③）

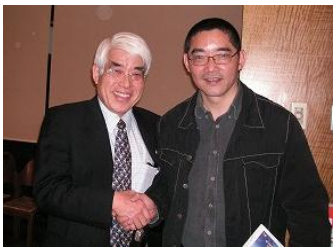
３）対談後は川端康成生誕の地にある料亭「相生楼」で昼食を済ませた（写真④⑤）後、温泉の大好きな莫言の希望どおり有馬温泉へバスで移動。超豪華な会員制リゾートクラブ「エクシブ有馬離宮」に泊まり、毛さんと３人で夜遅くまで「温泉談義」を展開し、翌朝は有馬温泉街散策に（写真⑥⑦⑧）。

４）そんな私としては今回の受賞は最高の喜びだ。莫言さんおめでとう！そこで事務所だより第２０号（新年号）は１６頁特大号とし、毛丹青氏との共同作業を振り返るとともに、莫言対談の様子を貴重な写真を交えてお伝えするとともに、莫言文学の真髄を少しでも皆さんにお伝えしたい。

ノーベル賞作家・莫言との対談までの毛丹青老師と坂和の共同作業を振り返って！

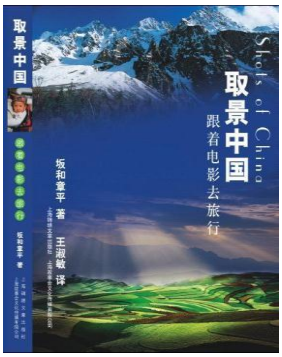
第２　蘇童座談会（０８年４／２）

毛丹青の司会で



蘇童と２ショット

中国人女優の田原と２ショット

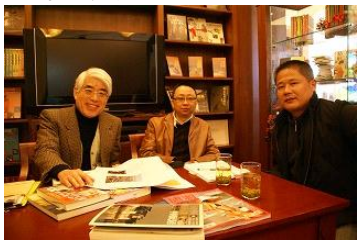


この本の出版に向けてゴー！

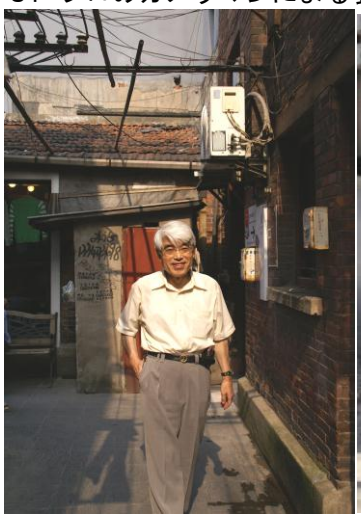
第３『取景中国』出版に向けて打ち合わせ開始

１.上海で夏青根らと打合せ（０８年８月）

２．北京・上海で打合せ（０９年３月）



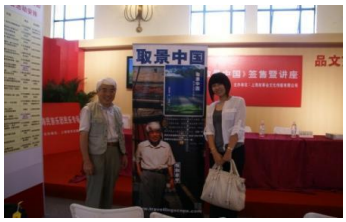
３．プロのカメラマンによる表紙用写真撮影



０８年８月、上海の田子坊

０９年３月、北京の下町

第４『取景中国』上海ブックフェア（０９年８／１８）



第５　大学での対談・共同講演あれこれ

１．華東理工大学外国語学院（０９年９／１８）

２．大連理工大学（１０年３／１４）

第６　ＣＣＴＶデビュー！（０９年１０／１１）

毛丹青を特集したＣＣＴＶの３０分番組『華人世界』が０９年１０月１１日に放映。その中で坂和も１分間だけＣＣＴＶデビュー！

第７　定遠号プロジェクト（１０年３／１５）

威海は日清戦争激戦の地。清国の北洋艦隊が誇る巨大戦艦「定遠号」をめぐる旅に。さて今後の展開は？

実物大の定遠号

電光掲示板に注目！

第８　莫言対談（１１年７／２６）→７頁参照

第９『电影如歌』出版（１２年８月）→９頁参照

莫言さん、ノーベル文学賞受賞おめでとう！

①毛丹青の通訳で対談

②２人で固い握手を！

③次々とサイン中の莫言

④川端康成ゆかりの「相生楼」入口

⑤「相生楼」の座敷にて

⑥エクシブ有馬離宮で深夜まで

⑦翌朝、エクシブ有馬離宮の中庭で

⑧太閤橋の前で

莫言文学の解説と莫言ＶＳ坂和対談のポイント

第１　莫言文学についての坂和の問題意識

１．農民性、土着性

１）１９５５年に山東省の高密県生まれ、育った環境は中農

２）時代の流れ―小５の時退学

　１９６６～１９７７年　文化大革命
　１９７６年　人民解放軍に入隊
　１９７８年　改革解放政策
　１９７８年　北京電影学院再開
　１９８２年　第１期生卒業
　１９８５年　作家デビュー

３）いつも動物が！そのウエイトが大きい

４）小説の舞台はいつも山東省高密県！（＝農村）

２．莫言文学の特徴

１）時代背景とテーマ

２）言葉づかい、文体など

３）主人公、登場人物（登場動物？）

第２　坂和からの質問事項

１.莫言の生活は？価値観は？人生観は？

Ｑ１　８人兄弟の末っ子。小５のときの退学は？

Ｑ２　６６～７７年の文化大革命の影響は？

Ｑ３　文革中の飢えとは？孤独とは？

Ｑ４　改革解放政策（７８年～）、天安門事件（８９年）の影響は？

Ｑ５　読んだ本は？その影響は？

　水滸伝、三国志などごく一部。しかし、祖父の語りによる民話や伝説多数。幽霊や妖怪で頭がいっぱい。

２.人民解放軍での文芸活動（７６年２１歳）から作家デビュー（８５年３０歳）までに、どんな文学の影響を？

Ｑ１　莫言にとっての外国文学の影響とは？

　ｅｘガルシア・マルケス『百年の孤独』（８５年）、川端康成『雪国』『伊豆の踊り子』

Ｑ２　なぜ中国人は川端康成が好き？

第３　円熟時代（長編小説を次々と執筆）（００～１１年）

Ｑ１　川端康成は短編小説の名手。三島由紀夫も当初はそう。莫言もそうだったが、ある時から（超）長編に！それはなぜ？

Ｑ２　長編には構想力が大切（ｅｘ『カラマーゾフの兄弟』『戦争と平和』『大地』など）。莫言の構想力はどこから生まれるの？

Ｑ３　小説の生命は主人公のキャラクター（ｅｘサリンジャー『ライ麦畑でつかまえて』、『罪と罰』のラスコリニコフなど）

①『赤い高粱』の余占鰲のキャラの原型は誰？

②『牛　築路』の楊六九（隊長代理、墓堀り）、白蕎麦（豆腐売り）、回秀（ニラ売りの少女）、老劉（豚の面を買った男）は？

③『白檀の刑』の孫丙、眉娘、小甲、銭丁（県知事）、趙甲（処刑人）は？

④『転生夢現』の西門鬧、藍解放、藍瞼、西門金竜、西門宝鳳は？

⑤『四十一炮』の羅小通（肉小僧）は？

⑥『蛙鳴』の万足（オタマジャクシ）、万心（伯母、産婦人科）は？

Ｑ４　動物の扱いは？音の扱いは？

第４　中国の現代文学と作家をどう評価？

１．張藝謀監督の『紅夢』の原作など、莫言と並ぶ大作家、蘇童は？

２．坂和の大好きな『ブッダと結婚』（０５年）、『衛慧みたいにクレイジー』（０４年）の「七〇后」の衛慧は？

３．中国人作家として初めて芥川賞を受賞した『時が滲む朝』（０８年）の楊逸は？
（毛丹青も坂和も評価が低いが・・・）

４．６２年生まれ、天安門事件を体験、９２年台湾で出版、本土では発禁、現在ロンドン在住、『裏切りの夏』の虹影は？

５．６０年生まれ、『活きる（活着）』の原作者で、『兄弟　上＜文革編＞、下＜開放経済編＞』（０８年）の余華は？

６.『水の彼方』（０９年）の「八〇后」の田原は？

第５　映画化された莫言文学（坂和評論）

１.『紅いコーリャン（紅高粱）』（シネマ⑤７２頁）

　１９８８年第３８回ベルリン国際映画祭で金熊賞を受賞し、『紅いコーリャン現象』をひきおこした、張藝謀の第１回監督作品。タイトルどおりの赤を基調とした色彩美とコーリャン畑、コーリャン酒を生かしたストーリー構成は出色！日本軍の出現が悲劇的な結末を生み出す衝撃的な作品だが、「中国の山口百恵」と呼ばれた鞏俐（コン・リー）を見出したことにも、この映画の大きな意義が・・・。

２.『至福のとき（幸福時光）』（シネマ⑤１９９頁）

　急速に近代化が進むまち大連。そしてこのまちでリストラされ結婚もできない負け組の中年男。そんな中年男と盲目の美少女との間で展開される何とも荒唐無稽な「騙し合い」。しかしそこには本物の心が。そして善意の仲間たちに囲まれて過ごす「至福のとき」が。張藝謀（チャン・イーモウ）監督の「しあわせ３部作」の完結編はホントに最高。

３.『故郷の香り（　暖　）』（霍建起（フォ・ジェンチイ）監督）（原作『白い犬とブランコ』）（シネマ⑰２６４頁）

　「どうしても観たい映画」がある。タイトルと監督の名前とスチール写真を見ただけで「これは！」と思ってしまう映画。それがこれ！「ふるさと」「１０年の後」「初恋の女性」――ありふれた題材だが、それをホントに感動的に描くことができるのは、中国の、それもごく一部の監督しかいないだろう。オーバーラップしながら静かに流れていく１０年前のストーリーと現在の姿……。今更どうしようもないことはわかりながらも、いやそうだからこそ、やはり感動！　映画ってホントにすごい芸術だと思わされてしまうこの名作は超お薦めだ！

上海・合肥・南京・上海旅行記
（２０１２年８月１６日～２４日）
（写真は１０、１１、１３頁）

今回の旅行の第１の目的は上海展覧中心で開催されるブックフェア（ＢＦ）への『电影如歌』の出品。さて、その販売戦略は？第２は『电影如歌』の翻訳者である李渊博の故郷、合肥を訪れ、父親が経営する変圧器製造の金徳公司を見学すること。国営企業から分離独立し、１０年余の間に急成長を遂げた会社とは？その戦略や人脈は？第３は李鴻章の出身地である合肥観光と、帰路の南京で中山陵などの観光をすること。そして第４は、上海交通大学の法学院院長の季衛東先生をはじめ、多くの中国人要人たちとの交流だ。さあ、８泊９日の中国旅行の成果は？

１．上海ＢＦ（その１）８／１７（金）（写真①～⑦）

『名作映画には「生きるヒント」がいっぱい！』をもとにした私の中国語の２冊目の本『电影如歌』は８月１７日に出品され、毛老師との対談・サイン会が実施された。これは０９年８月のＢＦに出品し対談とサイン会を実施した『取景中国』に続く快挙。対談終了後は私の中国語の腕を試すべく（？）日本語教育の会社「沪江网」のインタビューを受け、「沪江网　收获的不只是外语」という同社のスローガンを中国語で叫ぶことに！

２．夜は李宏社長主催の豪華な夕食会（写真⑧⑨）

３．上海ＢＦ（その２）８／１８（土）（写真⑩～⑬）

この日の目玉は『知日』第５号の出品と、苏静編集長ＶＳ毛主筆の対談・サイン会。会場は昨日の数倍のファンが集まり大盛況。そこには私のファンだという人たちも。

４.日本留学組との会食　８／１９（日）（写真⑭～⑰）

今回の日程すべてに付き合ってくれたのは、毛老師の学生である上海出身の孫晨俊君。そんな彼の音頭により、日本留学後上海で起業し成功している４０歳前後のビジネスマンたちとの昼食会が実現！

ここでは中国式乾杯の繰り返しはなく、さまざまなテーマにつき有益な情報交換を。解散後はお馴染みの南京路歩行街の散策へ。

５.合肥へ！会社見学と夕食会　８／２０（月）（写真⑱～㉔）

上海から列車で合肥へ。李宏社長の「合肥金德电力设备制造有限公司」を見学。その広さにビックリ。

中国式のオフィシャルな宴会では白酒による乾杯がつきもの。見学後の李宏社長主催の夕食会ではその中国式慣習に従い、白酒と赤ワインによる盃の交換が何度も何度も！

６．合肥観光　８／２１（火）（写真㉕～㉛）

１）李鴻章故居見学（写真㉕）

２０１０年３月の大連・威海・青島旅行の目的は「定遠号」の見学だったが、そこでは清国の近代化に尽力した李鸿章のことも詳しく展示。そんな彼の出身地が合肥だったとは！

２）包公祠見学（写真㉖㉗）

日本人は北宋の名臣として名高い包拯（ほうじょう）を知らないが、彼は公正潔白な裁判官として有名で日本の大岡越前守のようなもの。さまざまな紛争で彼が下した判決は民間伝承や芸能の世界で広く語り継がれ、包公故事という１つのジャンルが形成されている。台湾発のテレビドラマ『包青天』等も大人気で、中華圏では知らない人はいないらしい。

３）中国科学技術大学見学（写真㉘）

この初代学長は郭沫若。文化大革命以降「世界の学府を創り、天下の英才を育てる（创寰宇学府、育天下英）」という建学目標を掲げた同大学は、今や中国を代表する理系大学に！

４）合肥市包河区人民法院を外から見学（写真㉙）

薄熙来（ホージーライ）事件は世界を震撼させた。その妻で弁護士である谷開来の殺人被告事件の執行猶予付き死刑判決が、ここで８月２０日に言い渡された。その翌日、写真撮影を！

５）観光後は、今晩も李宏社長主催の盛大な夕食会を。（写真㉚㉛）

７.南京観光（その１）　８／２２（水）（写真㉜～㊿）

張藝謀（チャン・イーモウ）監督の『金陵十三釵』（１１年）は衝撃的。１９３７年１２月の南京事件を扱った映画は他にも『ジョン・ラーベ』（０９年）や陸川（ルー・チュアン）監督の『南京！南京！』（０９年）などがある。反日感情はともかく、北京、西安、洛陽と並ぶ中国四大古都・南京は必見！

１）南京南駅から和谐号に乗車（写真㉜㉝）

２）侵華日軍南京大虐殺遇難同胞紀念館（写真㉞～㊱）巨大な敷地内の陳列館内には膨大な資料が。「万人坑」遺跡、平和の塔も。

３）総統府見学（写真㊲～㊴）

４）中山陵見学（写真㊵～㊸）

三民主義（民族主義・民権主義・民生主義）を唱えた孫文を祭る陵園の入口には「天下為公」の言葉が。青い瓦屋根と白い壁は中華民国の青天白日旗を象徴。

５）夫子廟見学（写真㊹～㊻）

６）歩行者天国を散策（写真㊼㊽）

７）南京名物の南京小吃（写真㊾～㊿）

８.南京観光（その２）　８／２３（木）（写真52～59）

１）南京博物院（朝天宮）見学（写真52～56）

２）太平天国歴史博物館見学（写真57～59）

９．商务座で南京から上海へ（写真60 61）

中国高速鉄道（日本の新幹線に相当）の静かさと速さ、そして商务座（特等席）の豪華さにビックリ！

１０.季衛東先生との会食　８／２３（木）（写真62）

東京の松尾翼弁護士と毛老師共通の友人が、上海交通大学の法学院院長である季衛東先生。そこで今回は奥様の駱美化律師を含む会食がセットされた。そこに日本留学組の３人も参加し、約３時間にわたって中国式乾杯なしのアカデミックな議論の数々が。

１１．上海博物館見学　８／２４（金）（写真63）

１．上海ＢＦ（その１）８／１７（金）（写真①～⑦）

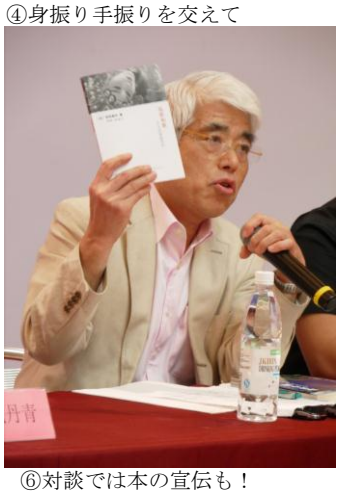
①ブックフェア会場の
上海展覧中心

②『电影如歌』を手に

③宣伝看板の前で、李君と

④身振り手振りを交えて

⑤サインも手馴れたもの



⑥対談では本の宣伝も！

⑦熱弁をふるう

２．夜は李宏社長主催の豪華な夕食会（写真⑧⑨）

⑧食事前の歓談

⑨李宏社長らと乾杯

３．上海ＢＦ（その２）８／１８（土）（写真⑩～⑬）

⑩毛丹青と苏静の対談は？

⑪対談終了後のサイン会は大賑わい

⑫『电影如歌』のファンと

⑬夜は足ツボマッサージへ！

４．日本留学組との会食　８／１９（日）（写真⑭～⑰）

⑭会食開始。坂和の挨拶

⑮全員で記念写真

⑯南京路歩行街のバス

⑰人民広場、五四運動紀念碑

５．合肥へ！会社見学と夕食会　８／２０（月）（写真⑱～㉔）

⑱１階は上海虹桥駅の待合室

⑲熱烈欢迎の電光掲示板が！

⑳巨大な合肥駅

㉑プレゼントを手に

㉒變臉（へんめん）のプロと

㉓３人で乾杯！

㉔カラオケでノリノリ！

６．合肥観光　８／２１（火）（写真㉕～㉛）

㉕李鴻章故居の前で

㉖３種類（龍、虎、犬）の「押し切り」（首切り道具）

㉗包公の座像

㉘「郭沫若像」の前で

㉙合肥市包河区人民法院の前で

㉚㉛今晩も李宏社長主催の盛大な夕食会を

７．南京観光（その１）　８／２２（水）（写真㉜～㊿）

１）南京南駅（写真㉜㉝）

㉜南京南駅

㉝和諧号

２）侵華日軍南京大虐殺遇難同胞紀念館（写真㉞～㊱）

㉞侵華日軍南京大虐殺遇難同胞紀念館

㉟史料陳列厅

㊱平和の塔

３）総統府見学（写真㊲～㊴）

㊲総統府の入口

㊳蔣介石の執務室

㊴１９１１年の辛亥革命で孫文が初代臨時大統領に

４）中山陵見学（写真㊵～㊸）

㊵祭堂までの階段は３９２段

㊶上から撮影

㊷巨大な孫文の像

㊸孫文のお墓がここに

５）夫子廟見学（写真㊹～㊻）

㊹孔子廟にある孔子像

㊺科挙の試験場として有名な江南貢院

㊻名前の字をトップにすえた詩（？）を書いてくれた達人と共に

章平コラム　中国の指導者交代をどう読み解く？

１）中国映画では１９８０年代中頃から①『黄色い大地』（８４年）の陳凱歌（チェン・カイコー）、②『紅いコーリャン』（８７年）の張藝謀（チャン・イーモウ）、③『青い凧』（９３年）の田壮壮（ティエン・チュアンチュアン）らを代表とする「第５世代」監督が華々しい活躍を開始した。彼らは１９６６年から７６年まで続いた毛沢東による「文化大革命」終結直後に再開された北京電影学院の１９８２年の第１期卒業生だ。これに続く新しい感性を売りにした第６世代監督が、①『世界』（０４年）『長江哀歌（エレジー）』（０６年）『四川のうた』（０８年）の賈樟柯（ジャ・ジャンクー）、②『ミッシング・ガン』（０１年）『ココシリ』（０４年）の陸川（ルー・チューアン）、③『緑茶』（０２年）『我愛你』（０３年）の張元（チャン・ユアン）、④『ふたりの人魚』（００年）『パープル・バタフライ』（０３年）『天安門、恋人たち』（０６年）『スプリング・フィーバー』（０９年）の婁燁（ロウ・イエ）、⑤『鉄西区』（０３年）『無言歌』（１０年）の王兵（ワン・ビン）たちだ。

２）他方、一人っ子政策をとる中国では１９８０年代生まれの「中国の新人類」ともいうべき８０后（バーリンフォー）や１９９０年代生まれの９０后（ジョーリンフォー）が増え、中国版ツイッター、微博（ウェイボー）を縦横無尽に駆使した若者たちの情報伝達と世論形成が進んでいる。

３）そんな中、「革命第１世代」の毛沢東から鄧小平（第２世代）、江沢民（第３世代）、胡錦濤（第４世代）と続いた中国共産党の指導者（＝中国の指導者）が昨年１１月１５日、第５世代の習近平に交代した。中国共産党員の数は約８２６０万人、その中央委員は２０５名、政治局員が２５名、そして政治局常務委員は今回９名から７名に減少し、その頂点に立つ習近平の人物像とは？田中角栄のような強烈な個性を持ったカリスマ政治家がいなくなった日本と同じように、中国共産党も鄧小平以降次第に集団指導体制に移行したが、そこには太子党・上海閥ＶＳ共青団の派閥抗争、権力闘争がある。胡錦濤は共青団出身だったが、習近平は太子党。昨年失脚した薄熙来と出世を争っていた人物だ。７名の常務委員のうち共青団は胡錦濤の後継者と目される李克強１人だけ。劉雲山は中間派だが、その他の４人はすべて上海閥・太子党。すると、率直に予想すれば今後の習近平指導部の傾向は「保守」で、対日政策は強硬路線に？もっとも、政治局員には「第６世代」と言われる４０歳代の共青団のエリートも入ったから、５年後、１０年後は再び政治改革路線に戻るかも。

４）胡錦濤が唱えた科学的発展観、和諧社会の考え方は引き継がれたが、日本のように１年毎に交代するはずのない中国の新指導者、習近平についてはじっくり研究、分析することが必要だ。２０１２年は世界各国で指導者が大きく交代した年。今年のお正月は、腰を据えてそんな勉強をしてみては・・・。

坂和章平とすばらしき人たち～交遊録
その１３　～松尾翼（たすく）弁護士（写真は１３頁下）

１）１９６３年に東京で個人事務所を創設した松尾翼弁護士は以降その規模を拡大するとともに、広く海外業務に目を向け渉外業務のパイオニア的役割を果たしてきた。彼は私より１５年ほど先輩だが、英語ペラペラは当然として、イギリス・ドイツ・オーストラリア・ベルギー・中国などまさに「世界を股にかけた」活躍ぶりはスゴイ！東京にあるいくつかの大手大規模渉外事務所に決してひけをとらない海外業務を精力的にこなしてきた。

２）弁護士が「天職」だと信じる彼は、「コロンブスの卵」の大切さを説く。そのココロは、誰もやったことがないことをやって見せる、その度胸、決断それを裏付ける理論武装が弁護士には不可欠ということだ。それを実践したのが、ビートルズのポール・マッカートニーが成田に来日した時、上着のポケットに大麻が入っていたとして逮捕された事件にみる彼の弁護活動だ。ポールは正式に日本に入国する前に大麻を持っていることがわかって逮捕されたのだから、日本の大麻取締法は適用されず、したがって刑法上も罪にならず、入管法上の退去強制処分にも該当しないという彼の弁護方針は、まさに「コロンブスの卵」理論の実践だ。これによって結局ポールは、「上陸拒否」という事実上の無罪を勝ち取ったが、それを導いた彼の殊勲は大きい。

３）そんな大先輩と私が「お友達」になれたのは、私の勝手な分析によれば、一匹狼的でケンカに強い弁護士ながら趣味や遊びが大好きな弁護士という本質（？）が共通しているため。ラフな服装でリュックを背負っている私に比べ、彼はいつも端整な服装のおしゃれな紳士だが、その内実はケンカ早く子供心がいっぱい！それは『議論に絶対負けない法』シリーズの出版をみても明らかだ。また若く美しい女性への好奇心は人一倍強く、その延長としての（？）面倒見の良さも天下一品。さらに人と人をつなぎ、その輪を広げる喜びを至上のものとしているから、映画評論家を自称し中国での活動を広げている私のような弁護士にも関心をもってくれたわけだ。

４）写真Ａは、日比谷公園を望む富国生命ビル１８階にある弁護士法人松尾綜合法律事務所の豪華な受付。写真Ｂは新橋演舞場の真ん前にあるステーキレストラン「ひらやま」での彼の仲間たちとの写真だ。彼がこの店を推薦する最大の理由は、厳選した和牛がすべて「戸籍謄本」付きのフィレとサーロインであること。サーロインはチャコール（炭）で焼き、フィレはガーリックを下敷にした鉄板で蒸らして食べる。その他の料理もすばらしく、デザートのケーキも逸品揃いだ。

５）彼との事件処理の共同打ち合わせは厳しいが、一歩そこを離れると楽しい世界が広がっていく。彼から紹介していただいた中国人の学者や弁護士たちは多いうえ、『シネマルーム』送付先の紹介も多い。弁護士を取り巻く情勢が厳しくなる中、東京での共同事務所の維持運営は大変だろうが、これからも末永くお元気で「松尾節」を聞かせて欲しい。

６）歩行者天国を散策（写真㊼㊽）

㊼大照壁をバックに

㊽お土産店

７）南京名物の南京小吃（写真㊾～㊿）

㊾南京名物の小吃料理「品小吃、看皮影、賞夜景」の看板が

㊿南京小吃はすべてセット
約３０種類の小吃が次々と

51土産店内で土産物を物色

８．南京観光（その２）　８／２３（木）（写真52～59）

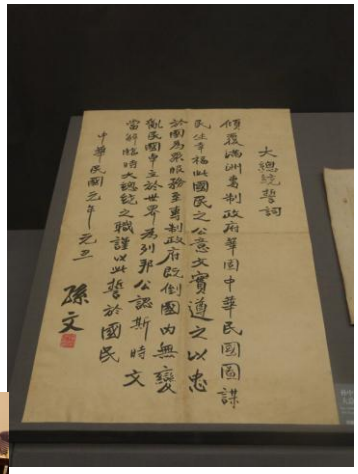
１）南京博物院（朝天宮）見学（写真52～56）

52朝天宮

53「博愛」と書いた孫文自筆の書

54三国志の英雄たちと

55孫文の蝋人形



56「中華民国　元年元旦　孫文」と記した「大総統誓詞」

57太平天国歴史博物館

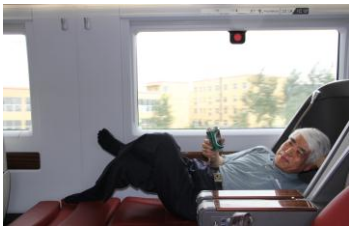
２）太平天国歴史博物館見学（写真57～59）

58金陵第一園にて

59洪秀全の像

９．商務座で南京から上海へ（写真60 61）

60商務座は１列に３席、
１両に８列、合計２４席のみ



61商務座では、ベッド状態にして寝そべっても十分

１０．季衛東先生との会食
８／２３（木）（写真62）

62会食終了後の集合写真

１１．上海博物館見学
８／２４（金）（写真63）

63上海博物館

写真Ａ（１２年９月撮影）

松尾綜合法律事務所の受付にて２ショット

写真Ｂ（１２年８月撮影）

（写真左上から）坂和章平　松尾翼　山岸泰洋
小杉丈夫　菊間千乃　鬼頭季郎

小杉丈夫（１２期）
松尾弁護士の
良きパートナー

菊間千乃（６４期）
元フジテレビ
アナウンサー

山岸泰洋（６０期）

鬼頭季郎
現弁護士・元裁判官
倒産法の権威

新人弁護士の現状と抱負（永井章紀弁護士）

１）「歳月人を待たず」と言いますが、早いもので私が坂和総合法律事務所に入所して１年が経過しました。入所した際には、まだハイハイもできなかった息子が、現在では元気に歩き回って、いっちょ前に食事の後片づけの手伝いなどもしてくれます。

２）弁護士業務では、坂和先生曰く「事務所全体の事件数は減少している」との事ですが、その分密度が濃く、考えさせられる事件が多いように思います。私も書面の作成に携わり、８月に判決が言い渡された交通事故の損害賠償請求事件は、現在の交通事故に対する司法の対応の優れた点と問題点、司法の果たす役割とその限界など色々と考えさせられた案件でした。事件の書面作成や書籍の原稿の下書き作業においては、「弁護士の書面作成は、その１ページ１ページに命を懸けるもの」という姿勢を学ぶとともに、坂和先生の愛ある（？）熱い指導により、自らがその姿勢をまだ本当の意味で理解し実践できていないことを痛感しております。

３）さらに、１人で法廷等に臨む事件も数多く経験させていただきました。自分の発言ひとつで事件の結論が変わってしまう可能性もあるので、１人で法廷等に臨むことはとても大きな責任を感じますが、それは自分の発言で結論を有利に変えることができるという意味でもあり、その分やりがいも大きいです。この１年間で特に印象に残っているのは、交通事故の損害賠償請求についての調停期日に１人で出席した事件です。派遣先、派遣元の使用者責任が絡む法的に複雑な事件でしたが、調停期日でのやり取りを経て、調停を成立させることができました。

４）この１年は、弁護士として登録しさまざまな行動をする中で、少しの成長と多くの未熟さを感じた１年でした。一刻も早く一人前の弁護士となれるよう日々努力してまいりますので、これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いします。

新人弁護士の現状と抱負（松井麻子弁護士）

１）昨年１月に当事務所に入所した松井麻子です。今回はじめて事務所だよりに寄稿することになり、少々緊張しています。前回の事務所だよりでご紹介（？）があったとおり、今年の５月末から８月末まで約３か月間、体調不良でお休みをいただいておりましたが、その後、９月１日から事務所に復帰しました。現在は、休養期間中に蓄えた力を使って前以上に頑張って働いています。

２）既に弁護士として働き始めて１年が経過し、最近では、この１年で自分のどこが成長したかな？と自問自答することがよくあります。しかし、日々さまざまな仕事をこなしていく中で、まだまだはじめて聞くこと、はじめてやることも多く、その度に右往左往している自分の至らなさに落ち込むこともあります。そんな中でも、坂和先生や宏展先生に色々と教えていただくことはもちろん、同期の永井先生とは小さなことでも同じ目線で質問し合うことができる心強い戦友です。

３）私の目下の課題は、休日をいかに過ごすかということです。１年前までは、「私の趣味は映画鑑賞」などと言っていましたが、試写会に足繁く通い映画評論を書かれている坂和先生を見ていると、そんなことを口に出すことも恥ずかしくなってきました。そこで最近は、毎日のデスクワークで少々運動不足気味なこともあり、体を動かすこと、さしあたっては観光を兼ねて大阪を歩き回ることから始めています。司法修習時代、山口で地名が分からず土地カンもなく苦労した私にとっては、これも重要な仕事の一部です。

４）年が明け、弁護士２年目が始まります。今年はより一層弁護士として成長できるよう、仕事にまい進していきたいと思います。

事務局長のひとりごと（原田雅子）

１）坂和事務所に就職して１１月で１年が経ちました。最初の１か月は『都市計画法の手引』の追録作成作業を行っていましたので、事件を担当するようになってからは１２月で１年になります。まだ１年しか経っていないのが信じられないくらい、さまざまな経験をさせていただき、また多くの方々と出会うことができたことを感謝しています。とても内容の濃い１年でした。新しい１年もまたいろんなことに積極的に取り組んで学んでいくことができたらいいなと思っておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

２）さて、前回は坂和事務所の日常をお伝えさせていただきましたが、すっかり自己紹介を忘れていましたので、遅ればせながら簡単に自己紹介をさせていただきます。私は兵庫県西宮市で生まれ育ちました。中学生の時に阪神大震災により被災しています。その後、同志社高等学校に進学し、そのまま内部進学で同志社大学法学部政治学科に進みました。大学時代は国際政治に興味があり、ＥＵ論や政治思想史等の講義をとると共に、ゼミでは行政学を専攻しました。また、同志社交響楽団に入団し、中学時代から続けているホルンと共に青春を過ごしました。大学時代の思い出としては、大学の勉強と並んで、交響楽団での「のだめカンタービレ」のような世界を思い出します。それとは別に、大学２年生の１年間は早稲田大学政治経済学部政治学科に国内留学し、慣れ親しんだ同志社とは異なる校風の中で学びました。もともと演劇が大好きだったので、政経の授業の他に第二文学部演劇科の講義を多く聴講し、また友達とたくさんの舞台を観劇（そして公演評を書いてみたりも）したので、趣味の面でも充実した時間を過ごしました。

３）その後、大阪の某法律事務所に就職したことをきっかけに法律家を目指す決心をし（大学では、教員免許取得に必要であった憲法と、興味があった国際法しか学んだことがありませんでした）、同志社大学法科大学院に進学しました。なので、永井弁護士とは同窓生です。新司法試験の勉強を続けましたが合格することができず、法律の勉強が活かせる仕事を探していたところ、坂和先生と出会うことができました。事件の担当をさせていただき、また書籍出版や追録作成作業に関わらせていただき、さらに自分だけでは絶対に出会うことができないであろう方々と多くお話をする機会を与えていただき、とても感謝しています。これからも負けずにくじけずに頑張っていきたいと思っています。

新人事務局の自己紹介（吉田知恵子）

昨年１０月末より坂和総合法律事務所に入所しました吉田知恵子です。事務所の魅力は、坂和先生の熱い人柄、そして幅広い業務の内容だと感じています。最初、法律は大学でかじった程度、という不安が大きかったものの、事務所の忙しさや刺激のある環境にそんなものはどこかへ行ってしまいました。先生の指示が充分に理解できなかったり、事件の内容・進行状況が掴めていなかったりと学ぶべきことは多く、日々自分の至らなさ・未熟さを反省する毎日です。しかし反省だけで終わることなく、それを活かしていけるよう特訓中です。坂和先生をはじめとする先生方の叱咤激励、先輩事務局の指導の中、一日もはやく事務所の役に立てるよう頑張ります。

映画評論家『ＳＨＯＷ－ＨＥＹ』の部屋
～お正月のお薦め作品～

『リンカーン弁護士』（アメリカ映画）
監督：ブラッド・ファーマン　出演：マシュー・マコノヒー　他
（ＤＶＤもしくはＢｌｕ－ｒａｙでの鑑賞のお薦め）

『評決のとき』（９６年）の若き正義派弁護士も、１５年後にはチョイ悪で銭勘定のうまいリンカーン弁護士に！そんな変化には感無量（？）だが、「秘匿特権」をキーワードとした弁護士と依頼人との緊張関係は興味深い。

弁護士にとって後ろから鉄砲で撃たれるのは最も嫌なもの。しかも、それがすべて計算づくとなると・・・。ドンデン返しに向けての法廷シーンも十分見応えがあるから、法廷技術と弁護士倫理の両方を楽しく学べる映画として本作は最適！

「リンカーン弁護士」をより面白く見る為の法律（用語）解説付きＤＶＤとＢｌｕ－ｒａｙ発売！
（２０１３年１月８日より）

昨年７月１４日に公開された『リンカーン弁護士』が本年１月８日、日活よりＤＶＤとＢｌｕ－ｒａｙで発売されるが、その解説を弁護士であり映画評論家でもある坂和章平が執筆！本作のキーワードは「秘匿特権」。これは弁護士が職務上知り得た依頼者の秘密を保護する権利と義務のことだが、それをめぐってこんなストーリー展開になろうとは・・・。法廷シーンは緊張感いっぱいで面白いが、この解説を読めばさらに興味倍増することまちがいなし！こりゃ必見！

『レ・ミゼラブル』（イギリス映画）
２０１２年１２月２１日、梅田ブルグ７　他にて公開

監督：トム・フーパー　出演：ヒュー・ジャックマン　他

１９８５年のロンドン公演以来、世界４３カ国で上演され、２７年のロングラン記録を誇るミュージカル『レ・ミゼラブル』は、東宝の舞台で日本でも有名。その数々の名曲と感動のストーリーが映画に。悲しげに歌うファンテーヌ役のアン・ハサウェイの姿を予告編で観るだけでも、つい涙が・・・。ジャン・バルジャン役のヒュー・ジャックマンとジャベール役のラッセル・クロウの対決も見モノ。涙と感動まちがいなしの本作は、まさに年末年始に最適！きっと心豊かなお正月になるはずだ。

『二つの祖国で　日系陸軍情報部』（日本、アメリカ合作映画）
２０１２年１２月２９日、テアトル梅田　他にて公開

企画・監督・脚本：すずきじゅんいち

『東洋宮武が覗いた時代』（０８年）、『４４２　日系部隊・アメリカ史上最強の陸軍』（１０年）に続く、すずきじゅんいち監督渾身の日系史ドキュメンタリー三部作が本作で完結。米国陸軍の秘密情報機関＝ＭＩＳ（ミリタリーインテリジェンスサービル）の中心メンバーであった日系二世の元兵士たちの証言はいずれも重い。とりわけ、兄弟が敵味方に分かれて戦った沖縄戦を巡る証言や原爆投下直後の広島での証言は生々しく、かつ重い。総選挙直後の日本の今後を考えるうえで、絶好！

坂和章平の**独断**と**偏見**による坂和事務所の
２０１２年の１０大ニュース

１位　昨年７月２６日に対談した中国人作家・莫言さんが、見事ノーベル文学賞を受賞！（１０月１１日）

２位　上海ブックフェアで『电影如歌　一个人的银幕笔记』を出版。サイン会も大盛況。（８月１７日）

３位　上海・合肥・南京・上海旅行（８月１６日～２４日）へ。合肥で李鴻章故居や包公祠、人民法院などを、南京で大虐殺紀念館や総統府、中山陵などを見学。合肥では留学生の父親が経営する「合肥金德电力设备制造有限公司」も見学。豪華な会食も。また中国の新幹線である和谐号の指定席、グリーン席、商务座に初乗車。

４位　待望の『眺望・景観をめぐる法と政策』（民事法研究会・定価４，８００円）を出版。（４月２９日）

５位　天神祭の鉾流神事、陸渡御、船渡御に、西天満連合神鉾講の一員として初参加！（７月２４日、２５日）

６位　甲屋ビルの撤退（３月末）と、コートビル２階、４階の自己使用で会議室拡大。恒例の忘年会は４階で！

７位　交通事故の損害賠償金として、既払金を除き総計約２億６６００万円の支払を命ずる判決を獲得！

８位　苫小牧での遺産相続事件を受任し、宏展弁護士と共に苫小牧へ２度出張。仕事は厳しいが、北海道のおいしい料理をタップリと堪能。

９位　毛丹青の企画で、『知日』の編集長苏静、北京晚报の記者孙小宁らを招いた高野山ミッションに参加。『知日』の次回のテーマは「寺院」。（１１月２０日、２１日）

10 位　恒例となった年間２冊のシネマ本の出版として、『２０１２年上半期お薦め５０作』（『シネマルーム２８』（７月））と、『２０１２年下半期お薦め５０作』（『シネマルーム２９』（１２月））を出版

◆ 業務時間 ◆

平　日　午前９時～午後６時
土曜日　午前９時～午後３時

（業務時間外の相談をご希望の方はお申し出下さい。）

＊相談にこられる際は日時の予約をしていただき、関係資料を一式持参して下さい。

＊また相談内容のメモを事前にＦＡＸもしくはメールにていただければ幸いです。

＊お車で来られる方はアクセスマップ（車・タクシー用）を参照して下さい。

事務所のホームページ
http://www.sakawa-lawoffice.gr.jp/sub1-3-2007chizu.pdf
から印刷していただくか、連絡をいただきましたらＦＡＸします。

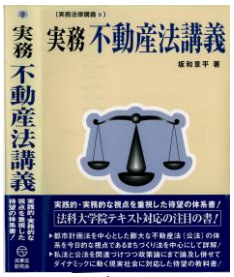
弁護士兼映画評論家
坂和章平の出版物の紹介

１９７４年以降の弁護士生活３８年の中で書いた法律書は膨大な数に。また０１年以降の映画評論家生活１１年の中で書いた２０００本以上の映画評論本は２８冊に。そこで今回はその主なものを掲載します。『シネマルーム』はすべて、法律書もＡＢＣは無料で贈呈します。ご注文は坂和総合法律事務所までＦＡＸ（06-6364-5820）もしくはメール（office@sakawa-lawoffice.gr.jp ）で。但し送料は実費負担でお願いします。

（９６年５月）

（０４年５月）

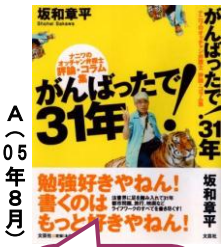
（０４年１１月）



（０５年４月）

（０５年１０月）

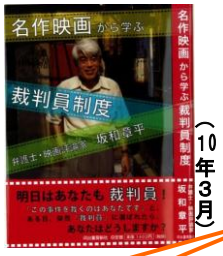
（０７年７月）



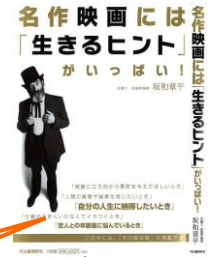
Ａ（05年８月）

Ｂ（０８年４月）

Ｃ（０６年９月）



（10年３月）



（１０年１２月）

（12年４月）

まるごと坂和弁護士！

愛媛大学での「都市法政策」の集中講義を実況中継。

この本をもとに中国語の『电影如歌』を！

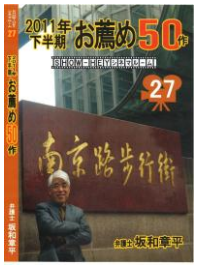
観光立国のためには良好な景観が不可欠。そのための法と政策は？東西両横綱判決と京都市眺望景観創生条例の解説は必読！

やっぱり坂和弁護士の映画評論はおもろいわ！『シネマルーム』シリーズ　充実のラインナップ

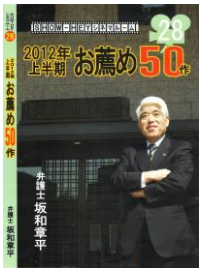
（１０年７月）

（１０年１２月）

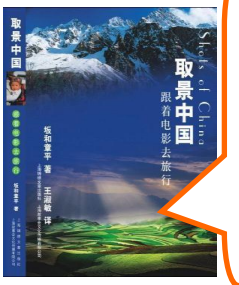
（１１年７月）



（１１年１２月）



（１２年７月）



（０９年８月）

はじめての中国語の本！

（０８年６月）

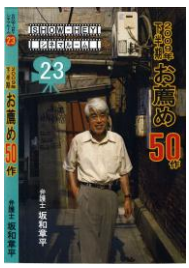
（０８年９月）

（０８年１０月）

（０９年２月）

（０９年５月）

（０９年８月）



（０９年１２月）

（０６年７月）

（０６年１１月）

（０７年２月）

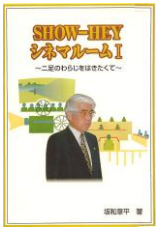
（０７年６月）

（０７年１０月）

（０７年１０月）

（０８年２月）

（０８年５月）

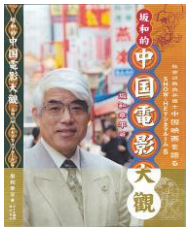


（０２年６月）

（０３年８月）

（０４年４月）

（０４年１１月）



（０４年１２月）

（０５年５月）

（０５年１０月）

（０６年２月）